

STACY設工認第3回に係るコメント回答

<質問>

加振試験で用いている模擬地震動は、どのようなものか。

<回答>

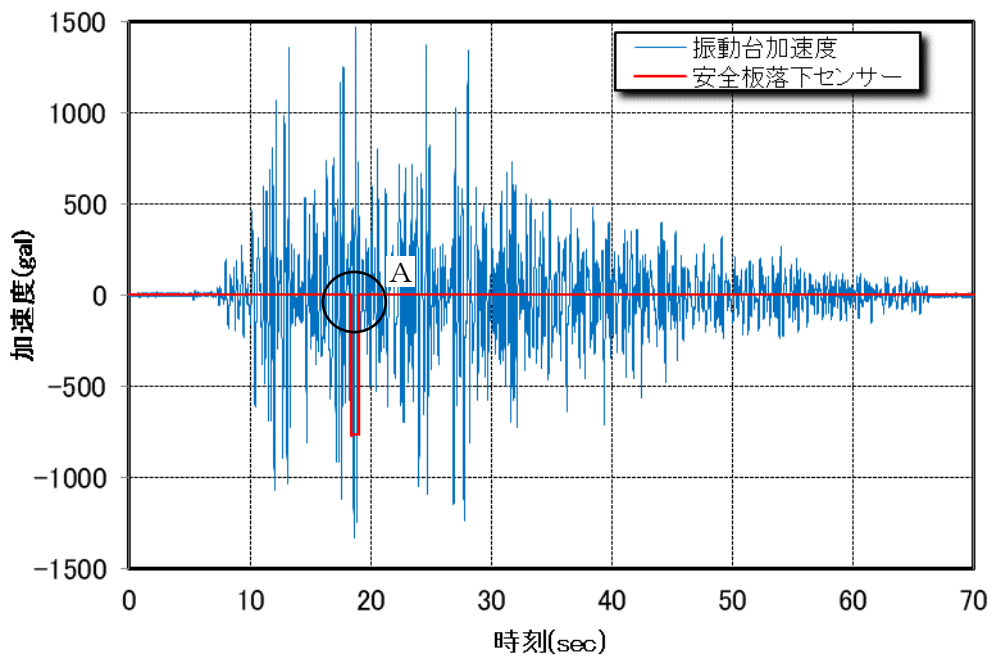
耐震バックチェックの地震動（時刻歴波）の拡大波（最大562galの地震波を最大1473galに拡大したもの）を振動台に入力し、振動台が大きな加速度となったときに安全板を落下させた場合の試験結果を図1に示す。試験においては、振動台床面が大きな加速度（約1400gal）となった場合でも安全板落下時間制限（1.5s）以内に落下が完了することを確認している。

安全板加振試験の入力地震波とJRR-3の基準地震動 S_s の比較を図2に示す。

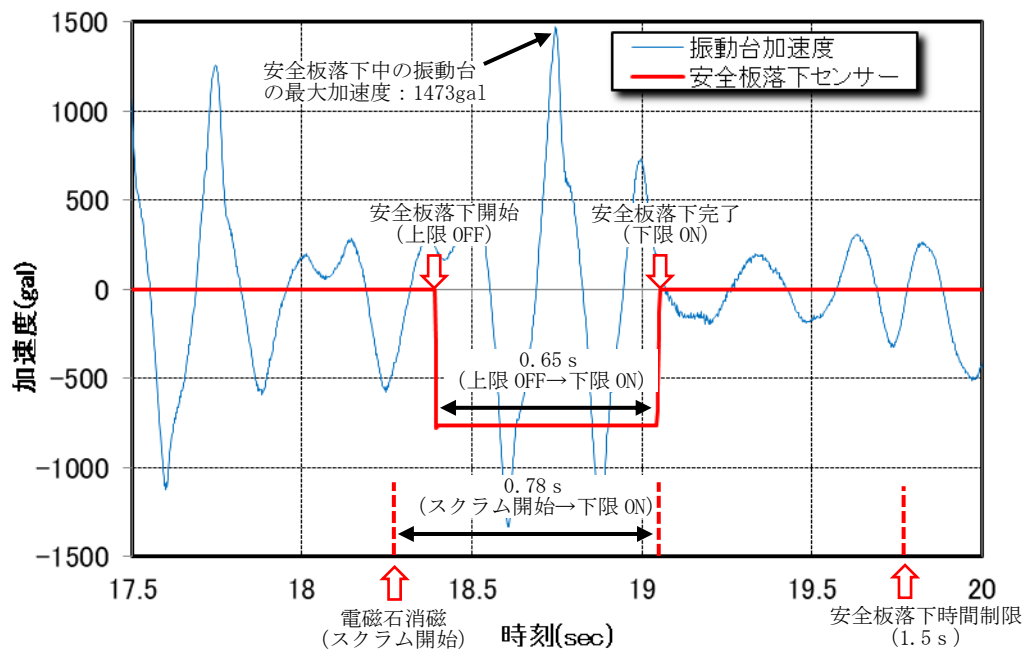
STACY振動台床面に入力した模擬地震動（1F床+約13m：STACYのスクラム前の安全板設置高さ付近を想定）の最大加速度は約1400galであり、JRR-3の基準地震動 S_s （1F床+約14m：STACYと同程度のレベル高さ）の最大加速度は約1000galである。

また、JRR-3とSTACYの地盤面の高さは、JRR-3：T.P.+約19m、STACY：T.P.+約8mであり、原子力科学研究所の解放地盤面（T.P. -約300m）を考慮すると、JRR-3の方が地震動が大きくなる傾向が考えられる。

以上から、STACYの模擬地震動は、加振試験に用いる地震動として適切な大きさを持っていると考えられる。



安全板装置加振試験の結果



A部詳細

(スクラム開始から安全板落下完了まで)

図1 安全板装置加振試験の結果

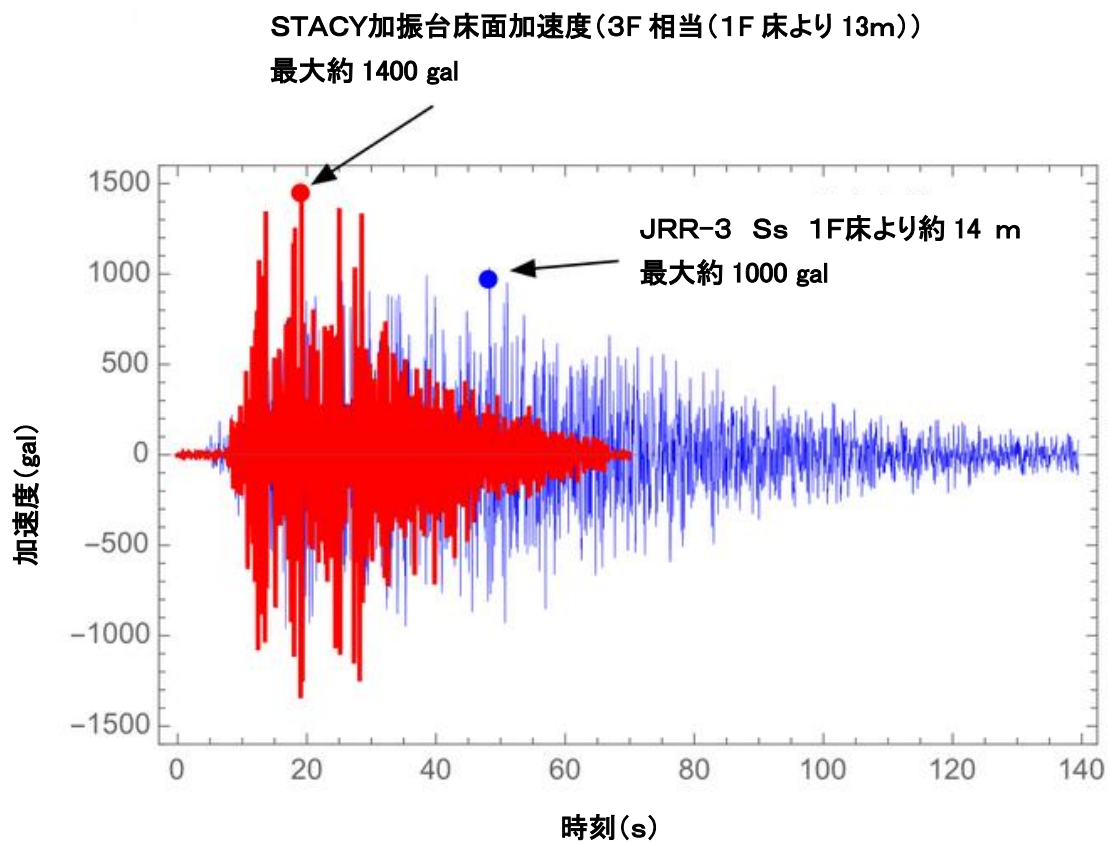


図2 安全板加振試験の入力地震波と J R R - 3 の基準地震動 Ss の比較